森からのお手紙

11号
2023

Topics

森のこよみ
お客様物語　林茂留さん

お一人おひとりの人生が異なるように、お墓の選び方も実にさまざま。
その想いや考えを、お届けします。

お客様物語

第11回

今回のお客様　林茂留さん

埼玉県草加市にお住まいの林茂留さんは、２０１９年に奥様と一緒に個別墓を生前契約されました。選んだ樹木はムラサキシキブです。

夫婦ともに「石のお墓はいらない」と意見が一致し、娘さん二人の負担も考えて自然葬を考えるようになりました。現役時代には会社の山岳部に所属し、海釣りも趣味として自然に親しんでいたほか、退職後に40日間をかけて四国の歩きお遍路をして、自然を肌で感じて気持ちが安らいだ経験から「自然に還る」森の墓苑に繋がりました。

林さんは、甥御さんを亡くされました。母であるお姉さんに森の墓苑の話をしたところ、気に入り、合葬墓を家族分３区画を契約されて、親族同士、墓苑が身近な場所となりました。

昨年は、甥御さんの納骨と、林さんのペットとして飼われていた3匹のわんちゃんの納骨を行いました。マルチーズのマークん、そして亡き後はトイプードルの龍太郎くんとマルチーズの惣一郎くんと、合わせて30年以上にわたり、家族として過ごしてきた大切な存在でした。林さんは「ペットの存在が家族を癒してくれました。一緒に自然に還るのは私たち夫婦の本望です」と話します。これまで、リビングの祭壇で供養していましたが、一緒に埋葬できるということも、森の墓苑を選んだ大きな理由となっています。

「現役時代は一生懸命働いて高度経済成長期を支え、便利で豊かな生活になったものの、大量の産業廃棄物や自然破壊、地球温暖化の問題などさまざまな環境問題も生まれました。それを元に戻すのには、すごくエネルギーがいると思います。同時に自然のエネルギーというのは私たちの想像の範囲を超えているとも思います。森の墓苑の、無から有になり、また無になる…。このサイクルが現代にとても価値のあることだと思います」

初めての見学の際は、足元のフキノトウに気づき、納骨した春は、サクラが綺麗に咲いていました。秋になればムラサキシキブの実が色を挿すでしょう。季節の移ろいも感じられる森の墓苑の風景を見て、「ここがいずれ花に覆われ、そして一つの森になる…」そう思うと、自然と心が安らぐそうです。

森の墓苑
自然のなかに眠り森を育てる

（公財）日本生態系協会　森の墓苑東京事務所
東京都豊島区西池袋2-30-20音羽ビル
電話 0120-901-580（9:00～18:00）　HP www.morinoboen.org

森からのお手紙　11号 2023　発行：（公財）日本生態系協会

◆見学やお墓参りについて◆ ご来苑の際は、スタッフ不在の場合がありますので、前日までにご連絡ください。スマートフォンのアプリ「LINE」のビデオ通話を使用した現地見学も承ります。

◆出張説明◆ ご自宅や団体・企業での説明会も承りますので、ご依頼ください。

植樹草会 2023

森と草はらづくりに、今回も多くのみなさまにご参加いただきました。生きもの調査や研究の専門職員による自然観察を楽しんだあとは、地域に自生する木々の苗木と、スミレを植付けました。お昼は地域の食材で作られた美味しいたけのこ弁当を味わいました。

忙しいシジュウカラ

森のこよみ

早足で訪れた今春の里山は、爽やかな若葉色が覆い、ヤマザクラの淡紅色がそのを間を染めます。あたたかな陽が差し込むなか、シジュウカラの親鳥は、雛たちの世話に大忙し。大きく育った巣立ちの頃には、木々や草はらの緑色は段々と深さを増していきます。

ヤブデマリ

ガマズミ

ウグイスカグラ

ベニシジミ

モリアオガエルの産卵

区画「りんどう」リニューアル販売開始

4月より合葬墓「りんどう」を個別墓としてリニューアルしました。この区画は森に近く、あじさい、くろもじ、さんしょうなどの低木の植樹や、四季の野草を楽しむことができます。

開苑時間 10~16時 **月曜定休**（祝祭日を除く。月曜日が祝祭日の場合は開苑）

お問い合わせ 電話 0120-901-580（全日9時~18時）

◆お盆8月11日（金）~16日（水）と、秋のお彼岸9月20日（水）~26日（火）は、毎日開苑しています。

トウキョウサンショウウオの放流

昨年から環境改善を行っているビオトープ池から、専門学校生たちが卵を採取し、2~4㎝に育ててくれました。今回その100匹を、地域の方々と元の池に放流しました。近年、生息環境の変化等でトウキョウサンショウウオの数が減っていますが、この池でも次の世代へつなげるために、孵化後少し成長した段階で放流することで、絶やさないようにしています。